

探訪
新ライフ
スタイル

日本はホンダ、スズキ、カワサキ、ヤマハの4大バイクメーカーにより、生産台数では世界市場の4割を超えている。ところが、まだ一般にはバイクカルチャーは広がっていない。ヨーロッパでは高級大型バイクを所有する人はボルシェやフェラーリと同様のステータスと見られ、仲間同士のツ―

進化するバイク体験空間



バイクに関する体験、ブランド発信
など全てがそろう（静岡県函南町の
バイカーズパラダイス南箱根）

ライダー交流で広がる市場

リングやレースの開催などでの中型・大型二輪免許取得者が増加するなど、バイクも盛んに行われている。ただ、ここ3年連続して日本カーの新しいライフスタイル

ルの芽が登場してきた。
昨年8月に静岡県と神奈
川県の県境である湯河原パ
ークレンタルを行く。レン
タル代金にはガソリン代、
ヘルメットやグローブ、保

表の加藤稔氏は「男の孤高な世界から抜け出し、バイクが集い、情報を得る場として提供し、格好良いライフスタイルのバイク・コミュニティをつくる」と語った。加藤氏はBMW企画や、芝生エリアでのオフロードスクールなども開催した。ファッション誌、ゲーム、映画業界とのコラボなど、受動的に変化に対応するのではなく、自らが能動的に新たな変化を積極的

につくりだす。

ークウェイと箱根ターンパイクが重なる湯河原峠に「バイカーズパラダイス」が開業した。敷地面積2万平方㍎、建築面積750平方㍎の2003年に廃業したドライブイン施設をリノベーションし、バイカーのための聖地が誕生した。

施設には200席を超えるカフエラウンジやライブラリー、ビンテージバイク展示、ハンモックでの休憩場、各メーカーと組んだイベント開催の他、1時間3000円で最新モデルのバイカーズパラダイス代

取も全て含まれている。また、ハーレーダビッドソン、BMW、ドゥカティ、トライアンフや日本メーカーも含めて約50台を保有、最新モデルの乗り比べができることで、次の買い替え需要へつなげる役割も担う。施設運営協力費として二輪車1台5000円の入場料が徴収されるが、各メーカーのデモンストラクションや様々なイベントにも参加でき、バイカー同士のコミュニティ促進が狙いだ。

バイカーズパラダイス代のルートをつーリングする

ジャパンの取締役から、ドゥカティ・ジャパンの社長に就任した経歴を持つ。4輪と2輪の高級車で培ったマーケティングで「企業と顧客、顧客同士が交流する場としてのブランド・コミュニティ」がキーファクター。この経験が生きている。次の戦略は90%男性のマーケットにいかん女性を取り込み、マーケットを柔らかく広げていけるかだ。女性限定で原付きから125ccまでのバイクで箱根駅伝のルートをつーリングする

バイカーの多くは自由に生きたいと思っているが、仲間とはつながっていたいと願っている。ソロツーリングより、走り方や好みが合う仲間とのマストツーリングはより深いバイクの楽しみだ。現在、バイクと共に泊まれるホテル計画も進行しており、バイクもライフスタイル視点で捉えると、さらなる市場の広がりが期待できよう。

(商い創造研究所代表 松本大地)